

重要業績評価指標(KPI)	提供元(※総合戦略に記載されている課所)	策定時	H27末	H28末	H29末	H30末	R1末	R1(目標値)	備考	指標から見てくる傾向	基本目標における達成度
出会いの場の創出として開催したイベント数	産業振興課	—	—	1回	0回	0回	0回	10回		結婚や出会いに係る事業に取り組む所管課の整理ができず、また実施にかかる費用も高額となるため、積極的な事業実施ができなかった。	4/15 (26.6%)
出会いの場を通じて交際を開始した組数	産業振興課	—	—	5組	0組	0組	0組	50組			
出生数	住民基本台帳	999人 (H26年度)	971人 (H27年度)	951人 (H28年度)	939人 (H29年度)	850人 (H30年度)	822人 (R1年度)	1,000人 (各年度)		全国的な傾向と同様に、本市においても出生数が減少となった。	
保育所の待機児童数	保育課	10人 (H27年度当初)	36人 (H28年度当初)	66人 (H29年度当初)	66人 (H30年度当初)	19人 (H31年度当初)	27人 (R2年度当初)	0人	※H29年度から育休中でも待機児童にカウント	保育施設の整備は進めているものの、低年齢(1・2歳児)の保育希望者数が増加しており、保育定員数と保育希望者数とのミスマッチが起きたため、目標値に届かなかった。	
子育て支援の情報が少ないと感じる方の割合	市民意識調査(P60)	35.6% (H27年度)	—	—	37.1% (H30年度)	—	—	25.0%		平成29年度に子育て応援サイト「スマイルなび」を導入したものの、調査実施時点では、その認知が進んでおらず指標はやや悪化した。	
放課後児童クラブの待機児童数	保育課	0人 (H27年度当初)	0人 (H28年度当初)	0人 (H29年度当初)	0人 (H30年度当初)	0人 (H31年度当初)	0人 (R2年度当初)	0人		計画的な施設整備により、放課後児童クラブにおける待機児童は0人を維持することができた。	
児童館施設の利用者満足度	児童館利用者アンケート(保育課)	90.0% (H26年度)	92.9% (H27年度)	94.6% (H28年度)	90.0% (H29年度)	96.1% (H30年度)	95.7% (R1年度)	95.0%		指定管理者による児童館運営により施設での過ごしやすさや雰囲気づくりや事業の充実などが図られ、利用満足度が向上し目標値を上回った。	
健康づくり料理講習会の参加者数	健康増進センター	906人 (H26年度)	933人 (H27年度)	901人 (H28年度)	812人 (H29年度)	750人 (H30年度)	648人 (R1年度)	1,000人 (累計人数)		参加者が固定化されており新規参加者の獲得が進んでおらず、減少傾向にある。	
むし歯のない5歳児の割合	健康増進センター	69.6% (H25年度)	—	78.4% (H28年度)	73.1% (H29年度)	81.0% (H30年度)	71.1% (R1年度)	71.9%	令和2年度は達成見込	3歳児健康診査にて、平成28年度からフッ化物塗布が始まり、むし歯予防への取組が根付いてきたため、毎年度70%以上の割合を維持できている。	
各種子ども大学の参加者数	生涯学習課、地域文化振興課	120人 (H27年度)	—	125人 (H28年度)	112人 (H29年度)	125人 (H30年度)	130人 (R1年度)	150人 (累計人数)	R1年度参加希望者数 子ども大学93人(定員60人) スポーツ大学48人(定員40人) 文化芸術大学30人(定員30人)	普段の学校生活等では学べない講義内容で、令和元年度も参加希望者数だけで見ると目標値を上回っている。人員体制等を理由に定員の拡充ができなかったため、目標値へは届いていない。	
AET※1による小学校の外国語活動及び中学校の英語授業の1学級における年間時間	学校教育課	小学校26.5時間 中学校29.3時間 (H26年度)	小学校26.3時間 中学校29.5時間 (H27年度)	小学校34.2時間 中学校37.6時間 (H28年度)	小学校33.9時間 中学校38.3時間 (H29年度)	小学校41.0時間 中学校42.0時間 (H30年度)	小学校41.3時間 中学校48.6時間 (R1年度)	小学校35.0時間 中学校35.0時間		AETの処遇改善を行った結果、職員の増員を行うことができ、結果として授業時間を拡充することができた。	
健康づくりの推進に対する満足度	市民意識調査(P62)	67.2% (H27年度)	—	—	60.4% (H30年度)	—	—	70.0%		市民の健康づくり事業に対する意識は高まりつつあるものの、開催日や申込方法といったニーズの多様化に対応が出来なかったため。	
ふじみパワーアップ体操地域クラブが活動している拠点数	健康増進センター	29か所 (H27年度)	—	34か所 (H28年度)	37か所 (H29年度)	42か所 (H30年度)	45か所 (R1年度)	45か所		地道なアプローチにより、順調に拠点数を増やすことができたため。	
60歳以上の方の多様な学習活動の支援に対する満足度	市民意識調査(P79)	45.5% (H27年度)	—	—	46.0% (H30年度)	—	—	50.0%		開催日や申込をHPからできるようにするなど多様化する市民ニーズに対する対応の改善を図っており、満足度は微増傾向にある。	
図書館サービスの充実に対する満足度	市民意識調査(P80)	55.7% (H27年度)	—	—	59.2% (H30年度)	—	—	60.0%		指定管理者によりサービスの改善に取り組んでおり、満足度も上昇傾向にある。また、平成30年度には、中央図書館が大規模改修を経てリニューアルオープンをした。	

A  
「人」にあたたかい富士見市

重要業績評価指標 (KPI)		提供元(※総合戦略に記載されている課所)	策定時	H27末	H28末	H29末	H30末	R1末	R1(目標値)	備考	指標から見てくる傾向	基本目標における達成度
B 暮らしにやさしい富士見市	保存樹林・市民緑地・緑の散歩道の面積	まちづくり推進課	74,151.70㎡ (H27年度)	76,456.43㎡ (H28.3現在)	75,345.43㎡ (H29.3現在)	68,101.11㎡ (H30.3現在)	68,101.11㎡ (H31.3現在)	68,101.11㎡ (R2.3現在)	維持・発展		樹林所有者の高齢化が進んでおり、適正な維持管理が出来ないなどの理由から、土地の売却などが増加しているが、保存樹木や保存樹林の指定を行うことで近年は面積の維持ができています。	4/13 (30.7%)
	公園の整備・緑化の推進に対する満足度	市民意識調査(P42)	60.8% (H27年度)	—	—	63.1% (H30年度)	—	—	65.0%		利用者が快適に公園を利用できるよう、計画的な維持管理に努めており、満足度は増加傾向にある。	
	水子貝塚資料館及び難波田城資料館の入館者数	資料館	水子貝塚資料館 44,169人 難波田城資料館 50,493人 (H26年度)	水子貝塚資料館 47,964人 難波田城資料館 55,617人 (H27年度)	水子貝塚資料館 47,920人 難波田城資料館 54,911人 (H28年度)	水子貝塚資料館 48,948人 難波田城資料館 55,507人 (H29年度)	水子貝塚資料館 48,514人 難波田城資料館 51,428人 (H30年度)	水子貝塚資料館 40,691人 難波田城資料館 29,163人 (R1年度)	水子貝塚資料館 46,000人 難波田城資料館 52,000人		施設の大規模改修等により、長期休館せざるを得ない状況だったため、令和元年度は利用者が減少したが、概ね目標値を上回る入館者で推移している。	
	犯罪率	埼玉県警察本部資料	10.46件 (H27年暫定値)	11.17件 (H27年)	8.5件 (H28年)	9.2件 (H29年)	7.8件 (H30年)	7.58件 (R1年)	10.00件		街灯防犯カメラの設置や、町会・商店会等による防犯活動の推進により、犯罪率は減少している。	
	防犯灯のLED化率	道路治水課	18.1% (H27年度)	20.75% (H28.3現在)	46.6% (H29.3現在)	72.1% (H30.3現在)	100% (H31.3現在)	100% (R2.3現在)	100.0%	※全ての防犯灯対象	計画的な推進により設置率は100%を維持している。またLED化による副次的な効果として、電気料金や二酸化炭素排出量の削減にも寄与している。	
	自主防災組織率	安心安全課	69.0% (H26年度)	73.0% (H27年度)	73.8% (H28年度)	73.9% (H29年度)	74.2% (H30年度)	75.8% (R1年度)	93.0%		地域への働きかけと住民の理解により結成数は増加傾向にあり、令和2年度時点で86%到達見込みである。	
	地域防災力の向上に対する満足度	市民意識調査(P52)	39.9% (H27年度)	—	—	50.0% (H30年度)	—	—	50.0%		各地域での防災訓練の実施など、自己防災力向上により満足度が向上したことで、目標値に到達した。	
	安全で快適な道路の整備に対する満足度	市民意識調査(P48)	37.5% (H27年度)	—	—	39.2% (H30年度)	—	—	50.0%		県など関係機関との調整や周辺環境への配慮を行いながら車道や歩道の整備を進めており、満足度は微増傾向にある。	
	地域まちづくり協議会の組織数	協働推進課	2か所 (H26年度)	5か所(地域) (H27年度)	6か所(地域) (H28年度)	6か所(地域) (H29年度)	6か所(地域) (H30年度)	6か所(地域) (R1年度)	9か所	※後期基本計画では、単位を「地域」としている	地域における共通課題の掘り起こしや機運の醸成が出来ず、目標値までは到達しなかった。	
	市民参加・協働の推進に対する満足度	市民意識調査(P98)	28.3% (H27年度)	—	—	42.3% (H30年度)	—	—	50.0%		市民提案型協働事業への支援事業の実施などにより満足度は大幅な増加傾向にある。	
	観光入込客数	地域文化振興課	約318,000人 (H26年度)	約301,000人 (H27年度)	323,158人 (H28年度)	303,196人 (H29年度)	324,956人 (H30年度)	304,688人 (R1年度)	約334,000人 (年間人数)		全市的なイベントについては、屋外で開催しているものも多く、天候の影響を受け大きく増減する傾向にあり、年度により数値にばらつきがある。	
市ホームページの運営に対する満足度	市民意識調査(P94)	37.1% (H27年度)	—	—	53.0% (H30年度)	—	—	50.0%		ホームページについてはWEBユーザーの割合が増えていること、リニューアル等により、利便性が向上していることなどから満足度が向上した。		
ふわっぴーの市民認知度	市民意識調査(P122)	79.0% (H27年度)	—	—	85.2% (H30年度)	—	—	100.0%		市のイベント等への参加や広報・HP等様々な媒体を活用した積極的な周知活動により認知度は増加傾向にある。		

重要業績評価指標 (KPI)		提供元(※総合戦略に記載されている課所)	策定時	H27末	H28末	H29末	H30末	R1末	R1(目標値)	備考	指標から見える傾向	基本目標における達成度
C 「仕事」をつくる富士見市	空き店舗活用による新規出店者数	産業振興課	—	2件 (H27年度)	3件 (H28年度)	3件 (H29年度)	5件 (H30年度)	11件 (R1年度)	15件 (累計件数)	H28～累計24件	商店街活性化推進事業補助や空き店舗出店への支援等により市内創業者の確保が進み、着実に出店者数が増加した。	2/11 (18.1%)
	創業者支援セミナー参加者数	産業振興課	—	—	21名	17人	13人	12人	80人 (累計人数)	H28～累計63人	国の創業支援等施策に基づく優遇措置を受けられることができる特定創業支援等事業として、セミナーの実施を行ったことにより、参加者数は着実に増えている。	
	各種講習会受講者数	産業振興課	—	25人 (H27年度)	40人 (H28年度)	83人 (H29年度)	60人 (H30年度)	78人 (R1年度)	300人 (累計人数)	H27～累計286人	若者や女性など幅広い対象者への就労支援講習会の開催により参加者数は着実に増えている。	
	集団就職面接会により就職した人数	産業振興課	—	29名 (H27年度)	14名 (H28年度)	6人 (H29年度)	2人 (H30年度)	52人 (R1年度)	150人 (累計人数)	H27～累計103人	ハローワークと連携した集団就職面接会の開催により令和元年度は参加者が大幅に伸びた。	
	介護職員初任者研修受講者のうち市内事業所就職者数	高齢者福祉課	13人 (H26年度)	13人 (H27年度)	13人 (H28年度)	8人 (H29年度)	13人 (H30年度)	11人 (R1年度)	75人 (累計人数)	H27～累計71人	毎年定員を上回る受講希望がある。また修了後には市内事業所への就労につながっており、市内の介護人材の確保に寄与している。	
	受講費用軽減者のうち高等学校卒業程度認定試験の合格者数	子育て支援課	—	—	—	0人 (H29年度)	0人 (H30年度)	0人 (R1年度)	8人 (累計人数)	H28～累計0人	利用実績無し。	
	認定農業者数	産業振興課	35人 (H26年度)	37人 (H27年度)	38人1法人 (H28年度)	39人1法人 (H29年度)	35人1法人 (H30年度)	35人1法人 (R1年度)	40人		新規就農者の確保が困難となっていることや認定農業者等チャレンジ支援事業補助金の補助要件が申請者のニーズにっていないことなどにより、認定農業者数が伸びなかった。	
	遊休農地面積	農業委員会	1.1ha (H26年度)	1.07ha (H27年度)	1.07ha (H28年度)	0.81ha (H29年度)	0.78ha (H30年度)	0.8ha (R1年度)	0.6ha		市外在住の農地所有者に対するアプローチが効果的に出来なかったことから、微減傾向にとどまった。	
	富士見オリジナル商品の開発数	産業振興課	—	4品 (H27年度)	0品 (H28年度)	2品 (H29年度)	2品 (H30年度)	2品 (R1年度)	10品 (累計品数)	H27～累計10品	市内業者との連携により、着実に商品数増やし目標値を達成した。	
	「ご当地グルメや昔から伝わる食」が市の魅力ある資源であると回答する割合	市民意識調査(P124)	0.7% (H27年度)	—	—	0.6% (H30年度)	—	—	5.0%		この指標を高めるための、事業を効果的に行うことが出来なかったため微減。なお市のPRに適した資源は他にもあるため、指標の設定が適切か検討する必要がある。	
産業系や教育機関等の誘致件数	まちづくり推進課	—	—	—	—	—	—	—		埼玉県企業局などとの調整が必要であり、計画期間では進捗しなかった。		

数値で赤字のものは、直近の年度実績値がR1(目標値)に対して未達となっているものです。

※1 AET: Assistant English Teacherの略で、英語指導助手。日本人の英語教師とチームで授業を行う外国人講師。